

## ネパール訪問でのあれこれ

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン  
理事長 マナングール マダーブ ナラエン

2月23日～3月4日滞在日程でネパールを訪れた。昨年4月の震災から今回ネパールへ行くのは2回目で、里帰りということもあり、思うようには動けなかったが、里子たちの様子や被災地を見て回った。街は震災前の活気を取り戻し、子供たちの笑顔は平和な生活を感じさせてくれた。しかし、9階建ての高さのダラハラ塔や倒壊した世界遺産を含む多くの寺院は無残な姿のまま取り残されていた。トゥンディケル広場の仮設テントは取り払われていたが、震災で傷んだ住宅はそのままのところが多い。復興の大変さを再び見る思いだった。しかし良い意味でのびっくりしたこともあった。一般道路に黄色い視覚障害者誘導用ブロックを整備し始めていることだった。場所は今博物館になっている元の王宮前の歩道のある道路だった。



貼ったばかりの点字ブロックの完成まで  
重しを載せた道路

昨年11月、JICA (Japan International Cooperation Association)から被災した子供たちへの奨学金としての支援が決まった。12月から今年の3月までの4ヶ月

分を68名に配った。一人当たり月2千ルピー合計8千ルピーだった。被災し勉強を続けるのが困難な子供たちが学校へ通えるよう学費、制服、靴、本、文房具などに充てられる。JICAからの支援金は予定としてはあと2ヶ月分の4月、5月で、今年度の分として再申請し承認が下りた。支援を受けた子供たち何人かにも会って来た。とても感謝していた。

3月3日MCN (ミランクラブネパール)事務所でMCNジュニアボランティアグループミーティングが開かれ、現在の特別里子たち8名が集まった。



8名の里子たち

MCN創立25周年に向けての準備やダルマスタリ学校で自分たちができるボランティアのことや卒業後のことなど活発な意見交換がされた。参加した私も里子たちの成長が嬉しかった。短大や大学への進学の支援をしてくださっている特別里親の方々へ感謝の言葉もあり、いつかそれぞれの里親に会えることを願っていた。将来は自立し家族を支え、また社会にも

貢献したい希望を語っていた。



空港に武藤さんを出迎える

滞在中ミランダルマスタリ学校を3回訪問した。2月24日、ミランクラブジャパンから美術教師として派遣された武藤慧子さんを連れて行った。各クラスそれぞれで紹介し、武藤さん自身も英語で自己紹介を行った。ある先生に何か描いてもらえないかと言われ、ホワイトボードにあつという間にドラえものの絵を描き、子供たちに喜ばれた。武藤さんはその日から学校に滞在となった。



左よりジャエラム・ラミチャネ校長、  
ディーブジャング・ラマ教師、  
ホワイトボードのドラえもん  
武藤さん、スニタ・ナカルミ副校長

武藤さん最初の1週間は授業参観で徐々に学校生活に慣れ、その後は少しずつ授業を始めていったとのこと。子供たちも先生が大好きな様子だ。4月の新学

期からは本格的に教える予定。

2月28日、学校に郡の教育委員会の担当者が視察に訪れた。私が今年から学校の運営委員長となったため、今後ミランダルマスタリ学校を10プラス2（日本の高等学校相当）の学校にするための助言を受けた。学校の運営委員は7名で構成されている。

3月4日、学校の教職員による定期ミーティングに参加した。これは毎週金曜日に行われている。今回は、今後の学校制度改革のことや教員不足の解消についてなど話し合われた。



ミーティング後の集合写真

その日は卒業生たちも来ていて、いろいろと話をした。その中の1期生の一人はアメリカに留学する予定とのことだった。



学校の前で4人の卒業生

今年、ネパールでは教育制度で大きな改革があった。SLC試験で合格、不合格

は決めず 6 段階評価で全員が進学候補生となる。しかし低い点数では進学できるかは未定だ。今までは不合格になると何年も何十年も再受験、又は進学を諦める結果となっていた。今年からは点数が低くても再受験はできない。SLC 試験の前には高校の卒業試験に合格しないと受験資格がないので、最難関試験として SLC 試験に代わるものになるのかもしれない。

新しい評価基準を次に載せる。

<New SLC Grading System>

- A+ : 全受験科目 90%以上 (特等)
- A : 80~89% (優)
- B : 60~79% (最良)
- C : 40~59% (良)
- D : 25~39% (弱)
- E : 25%未満 (最弱)

ミランクラブジャパンでは以前と同じく、(特等) (優) 評価で進学する里子の特別里親を募集し支援する。今年の受験生は里子 22 名、ダルマスタリ学校からは 20 名となっている。

そして学校制度も大きく変わろうとしている。今後 2 年の間に、今までの高校 2 年と短大 2 年を統合して高校 4 年とする。2 年後には小学校 5 年、中学校 3 年、高等学校 4 年に全国の学校が足並みを揃える。ネパールでの高卒は日本の高卒と同じ教育期間となる。

先月号でお知らせしたダルマスタリ学校での日本からのサッカー交流に関して (一財) 日本国際協力システムの石森氏

よりお礼と報告のメールが届いた。2 月 1 日~7 日にかけてネパール国内 16 校で実施されたイベント全終了後、サッカーボール 3 個、バレーボール 2 個の寄付をいただいた。その前のイベント当日にもボールペン 296 本いただいている。



サッカー交流でジャエラム校長に  
記念の品を手渡す日本からの訪問者

今回の帰国ではインドの経済封鎖の影響の大きさも見た。経済封鎖は解除したものの街ではいまだにガソリンスタンドの列は長く、物価は以前の約 2 倍となっていて日常生活の大変さが感じられた。食事の支度も燃料次第で電気不足も深刻だ。高い建物は電気で水を汲み上げているので、水不足にもなっている。経済的に余裕のあるところはソーラーを入れ始めている。隣国インドに全て頼ってきたネパールは今回のことで本当に困り果て、やはり隣国である中国との関係も考えるべき時期となった。ネパールの首相が中国を訪れている。

地震からちょうど一年となる 4 月 25 日、在日ネパール大使館を中心に日本の支援に対して感謝のイベントを行う予定となっている。